高木 札内中3年 3位 女子3000 急浮上

スピードスケート五輪代表選考会

【長野】スピードスケートのバンクーバーオリンピック日本代表選考競技会第1日は28日、長野市のエムウエーブで男女3種目を行った。女子3000㍍で15歳の中学生、高木美帆（札内中3年）が4分13秒90で実業団の選手たちを抑えて3位に食い込み、五輪代表入りが有力となった。石澤志穂（岸本医科学研究所―駒大苫小牧高、中札内中出）は4分12秒84で2位となり代表を確実にした。男子500㍍は太田明生（JR北海道―明大、池田高出）が35秒13、35秒09と好タイムをそろえて2位となり初代表を決めた。4位の及川佑（びっくりドンキー―山梨学院大、池田高出）も2大会連続の代表入りは確実。既に内定済みの長島圭一郎（日本電産サンキョー―日大、池田高出）とともに池田高出身3選手が五輪切符を手にすることになった。清水宏保（コジマ―日大、白樺学園高出）は7位に終わって5大会連続の五輪は絶望的となり、レース後に引退を示唆した。女子500㍍の元日本記録保持者、大菅小百合（大和ハウス工業―白樺学園高出）も6位と敗れて代表を逃した。

（古川雄介、金野和彦）

カメラのフラッシュを浴びたシンデレラガールが目を白黒させて初々しく戸惑った。未来の五輪選手として注目された15歳の高木美帆がW杯代表組を抑えて表彰台に上がり、一躍バンクーバー五輪の代表入りに前進、スピードスケートでは史上初の中学生代表となる可能性が高まった。「五輪は競技を続ける中で絶対に出てやると思っていたが、今季に出られるとは思っていなかった。実感がわかない」とあどけない笑顔を見せた。

「とてつもない逸材」 史上初 中学生代表視野に

33秒台前半のラップをキープする驚異的な安定感だった。指導する全十勝中体連の櫻居知克士コーチも「パワーがなくてもあんなに進む。ひざから下の角度がいつも一定で右も左も常に押せている」と驚かされるセンスは選考会の大舞台でも輝きを見せた。

日本スケート連盟の鈴木恵一スピード強化部長は「ベテランのようなスケーティング。とてつもない逸材」とうなった。

5歳からスケートを始め、小学2年からはサッカーにも取り組んだ。小学生時代は陸上競技でも数々の大会新を更新。中学ではサッカーも続けて男子と対等に張り合った。ほかにもヒップホップダンスも習っており、その身体能力は多彩な競技で磨かれた。500㍍から3000㍍まで対応する希有なオールラウンダーとしての能力を備え、「それぞれ楽しさがある」とさらりと言ってのける。

日本スケート連盟の橋本聖子会長は「個人的にはソチ五輪を考えると今行っておいたほうがいい」と断言。フィギュアの浅田真央が4年前に障害となった五輪の年齢制限（五輪前年7月1日時点で15歳以上）も、5月生まれの高木はクリア。ゴーサインは出た。代表発表は30日の競技終了後。「岡崎さんのようなすごい選手ばかりの中で行けるのかな。他人事のような感じ」と、フワフワとした雲の上にいるような表情だった。

【女子3000㍍】ラストスパートでコーナーを回る高木美帆

ベテラン岡崎 5大会連続

男子500㍍は代表に内定済みの加藤条治（日本電産サンキョー）が70秒01で優勝。女子500㍍は小平奈緒（相澤病院）が77秒14で制し、2位に入ったベテラン岡崎朋美（富士急）が5大会連続、4位の新谷志保美（竹村製作所）が初の代表入りを確実にした。十勝関係は石田誌保（十六銀行―山梨学院大、池田高出）が5位に入ったのが最高、1回目7位の辻麻希（岸本医科学研究所―白樺学園高出）は2回目で転倒した。女子3000㍍は五輪出場が決まっている穂積雅子（ダイチ）が4分9秒01の国内最高記録で制した。

石澤 初の夢舞台へ

【女子3000㍍】2位入賞で五輪行きのキップを確実にした石澤志穂は、観戦席の友人らの祝福に手を振って応える

ライバルに勝ち 心はバンクーバー

○…女子3000㍍最終組で滑った石澤志穂が代表内定済みの穂積に次いで2位に入り、初の五輪出場が確定。「とにかくほっとしています。前の組のことは頭に入れないようにして自分のことだけに集中した」と緊張感から解き放たれ、トレードマークの笑顔を輝かせた。

所属先の経営悪化で今夏は海外合宿を断念するなど試練を味わったが、W杯代表として自国別出場枠を獲得してきた。ライバルの大津広美を直接対決で破り文句なしの代表入り。

「五輪もびびることなく自分らしい積極的なレースをしたい」と早くも心はバンクーバーに飛んでいた。

1年ずつ成長 自信持ち本番へ

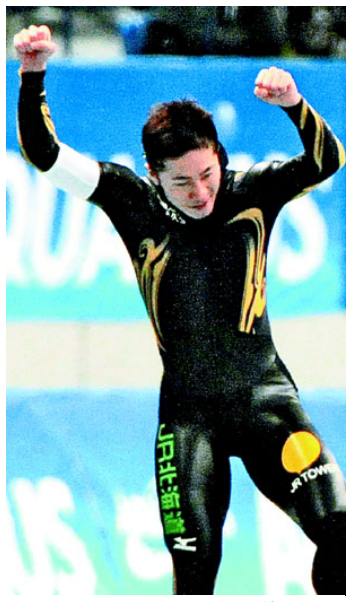
及川

○…今月のW杯ソルトレーク大会で男子500㍍の日本記録を樹立し、実質代表に内々定していた及川佑はきっちり4着に入り2大会連続の切符を得た。サバイバルレースとなったこの種目の4枠のうち3人を弟分の太田ら池田高出身トリオで占めたことに「めちゃくちゃうれしいですね」と顔をほころばせた。

28歳で再び五輪の表彰台への挑戦権を得たが、無我夢中で突っ走り、気がつけば日本人最高の4位となっていた前回とは違い、「1年ずつ成長を確かめながらきて、多少は自信を持って臨める」とうなずく。シーズン後半は調子の曲線が急上昇する時期。「今年だけ上がらないような間違いは起きないでほしいね」と笑わせる余裕も見せた。

先輩の背中追い成長

太田



【男子500㍍1回目】35秒13のタイムでオリンピック参加標準タイムをクリアし、ガッツポーズを見せる太田明生

「大満足です。ガムシャラに行った。（滑りは）もう覚えていない」。注目の男子500㍍、残り代表2枠をめぐる激戦に競り勝った太田明生が興奮気味に声を弾ませた。1回目、2回目とも同走した及川佑は札幌を拠点に練習をともにするチームメート。「及川さんのおかげでここまでこられた」と、池田高からの先輩への感謝を口にした。

明大在学中にW杯代表となるなど若手の成長株となったが、企業スポーツの縮小の時期と重なり、就職活動は暗礁に乗りかけた。橋本聖子日本スケート連盟会長の尽力でJR北海道入りが決まったが、その時練習に迎え入れてくれたのが、及川らのチームだ。身近に手本を得て「スケートを考えながら滑れるようになった」と意識から変わった。

レース直前には及川から『一緒に行くぞ』と声を掛けられ奮い立った。1回目は4位。100分の1秒遅れた相手は、明大時代のあこがれの先輩であり、今は代表を争う小原唯志。「自分の持ち味は強い気持ち」。2回目もひるまずコーナーへ突っ込み、小原だけでなく及川をも上回るタイムをたたき出した。

「五輪はどんなところか分からない。でも周りが喜んでくれると思う」と照れる。決して平たんな道ではなかったが、先輩・及川の後を追ってここまでたどり着いた。W杯もトップ10に食い込むようになり、世界とも争える感覚もある。野性的な滑りとは対照的に控えめに笑いながら、「楽しんで滑れば結果もついてくる」と決意を語った。

五輪絶望的で 無念の大粒の涙

大菅

【女子500㍍2回目】総合6位と振るわず、がっかりした表情の大菅小百合

○…「間違ったことはやっていないつもり。それが結果につながらなかったのが悔しい」。女子500㍍の大菅小百合は3度目の冬の五輪代表が絶望的となった。調子を落としても報道陣の前では気丈さを失なうことのなかった最速の女王のひとみから、大粒の涙がこぼれ落ちた。

2007年の世界距離別選手権では37秒51の日本新を樹立して、バンクーバーに向けて再出発は順風満帆のように思えた。

ところが翌シーズンに腰痛を発症、最大の武器であるスタートの爆発力を失った。構えを変えるなど工夫したが、「日本記録の時のような感覚には戻らなかった」。活動を支えてくれた大和ハウス工業の応援団の期待に応えられず「楽しみにしてくれたのに申し訳ない」と声を震わせた。

35歳 清水は引退示唆

【男子500㍍2回目】総合7位で終え、スタンドの声援に小さく手を振る清水宏保

○…「タイム的には悪くないが層が厚くレベルが高かった。これが結果、勝負の世界なので受け止めたい」。35歳の清水宏保は7位に沈み、5大会連続の五輪出場の可能性はついえた。翌日に1000㍍を控えるため、去就についての質問には「そのへんはまた改めてコメントしたい」と回答したが、現役生活に区切りをつけることを示唆した。

十勝が生んだ英雄に限界が訪れた。ロケットスタートと称された100㍍の速さを武器に、長野五輪男子500㍍で日本スケート界に初の金メダルをもたらしたが、近年は力の衰えが目立ちW杯代表からも遠ざかった。「悔しさは正直ある。ちょっとしたミスでコンマ2、3秒変わる。だがそういう勝負が好きだ」と現役にこだわり続けた。

1000㍍は五輪標準記録を切れておらず、代表入りの可能性はないに等しい。大会前には報道陣を完全にシャットアウトしたが、500㍍のレース後には吹っ切れたような表情で淡々と質問に答えた。「いいレースはできた。ただ世界と戦うにはもっといいタイムが必要」と、若手に託すような言葉が力の限界を示していた。

結果こだわらず

男子500㍍3位・長島圭一郎の話　結果にはこだわっていなかった。動きと道具のチェックをしただけ。内定がもらえていたことで余裕を持っていろいろ試すことができている。ブレードを交換したが、まだ動きとかみ合わず（氷に）力が伝わっていない。

まずW杯代表を

女子500㍍5位・石田誌保の話　人生初の38秒台を出すことはできたが、五輪は遠かった。2回目はスタートが決まり、100㍍の加速を生かして前を終えた。標準記録を切っていなかったので、出せるものを出すだけだった。4年後とか遠くを見ず、まずはW代表を目指したい。

（28日・7位以下関係分）

【男子】◇500㍍（2回合計）

世界記録	ジェレミー・ウォザースプーン（カナダ）	34秒03
日本記録	及川　佑（びっくりドンキー）	34秒27
国内最高	長島圭一郎（日本電産サンキョー）	34秒81
リンク記録	ジェレミー・ウォザースプーン（カナダ）	34秒68

①加藤　条治（日本電産サンキョー）　70秒01（①34秒94、①35秒07）
②太田　明生（JR北海道―明大、池田高出）　70・22（④35・13、③35・09）
③長島圭一郎（日本電産サンキョー―日大、池田高出）　70・24（⑤35・16、②35・08）
④及川　佑（びっくりドンキー―山梨学院大、池田高出）　70・26（②35・00、④35・26）
⑤小原　唯志（日本電産サンキョー―明大、白樺学園高出）　70・44（③35・12、⑤35・32）
⑥羽賀　亮平（日大―白樺学園高出）　70・66（⑥35・29、⑥35・37）
⑦清水宏保（コジマ―日大、白樺学園高出）70・89（⑦35・50、⑦35・39）⑧小林正暢（ムトウ―明大、白樺学園高出）71・34（⑨35・81、⑧35・53）⑨西村誉士（仁風林―専大、白樺学園高出）71・57（⑧35・78、⑨35・79）⑩富岡幸弘（明大―白樺学園高出）72・30（⑫36・16、⑫36・14）⑭大和田司（北翔大―白樺学園高出）72・41（⑭36・24、⑭36・17）⑮上田志樹（山中湖スケートクラブ―明大、白樺学園高出）72・53（⑬36・18、⑯36・35）⑩沼崎高行（明大―白樺学園高出）72・91（⑱36・57、⑮36・34）⑲土屋慎吾（山梨学院大―白樺学園高出）73・18（㉑36・72、⑰36・46）㉒土井優斗（専大―白樺学園高出）73・42（⑰36・55、㉒36・87）㉘池田大輝（日大―白樺学園高出）76・13（㉘38・12、㉘38・01）

【女子】◇500㍍（2回合計）

世界記録	ジェニー・ウォルフ（ドイツ）	37秒00
日本記録	小平　奈緒（相澤病院）	37秒50
国内最高	大菅小百合（大和ハウス工業）	38秒13
リンク記録	ジェニー・ウォルフ（ドイツ）	37秒71

①小平　奈緒（相澤病院）　77秒14（①38秒66、①38秒48）
②岡崎　朋美（富士急）　77・62（②38・89、②38・73）
③吉井小百合（日本電産サンキョー）　77・68（④38・91、③38・77）
④新谷志保美（竹村製作所）　77・90（③38・90、⑤39・00）
⑤石田　誌保（十六銀行―山梨学院大、池田高出）　78・28（⑥39・48、④38・80）
⑥大菅小百合（大和ハウス工業―白樺学園高出）　78・38（⑤39・34、⑥39・04）
⑦仁科有加那（日本電産サンキョー―帯南商高出）78・92（⑧39・69、⑦39・23）⑧渡邊ゆかり（富士急―白樺学園高出）79・76（⑪40・05、⑧39・71）⑩郷亜里砂（山梨学院大―白樺学園高出）79・81（⑩40・00、⑨39・81）⑮伊藤あさみ（山梨学院大―池田高出）81・23（⑰40・82、⑮40・41）⑰黒澤文恵（日体大研究員―池田高出）81・46（⑲40・95、⑯40・51）

◇3000㍍

世界記録	シンディー・クラッセン（カナダ）	3分53秒34
日本記録	田畑　真紀（富士急）	4分1秒01
国内最高	田畑　真紀（富士急）	4分9秒18
リンク記録	クリスティナ・プロープス（カナダ）	4分5秒03
①穂積　雅子（ダイチ）		4分9秒01＝国内最高

②石澤　志穂（岸本医科学研究所―駒大苫小牧高、中札内中出）　4・12・84
③高木　美帆（札内中）　4・13・90
④名取　英理（十六銀行）　4・14・76
⑤大津　広美（富士急―白樺学園高出）　4・15・96
⑥石野枝里子（富士急―白樺学園高出）　4・17・22
⑨川崎みなみ（群馬県体育協会―日体大、白樺学園高出）4・22・26⑪藤村祥子（日体大―白樺学園高出）4・24・04⑫藤村あゆみ（日体大―白樺学園高出）4・26・06

（リンクコンディション＝室温14.5度、氷温マイナス2.9度、湿度38％、気圧967hPa、28日午後2時40分現在）

かちまいスポーツ
記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶TEL0120-25-9410
Eメール▶sports@kachimai.co.jp
ファクス▶0155-25-2700